

# フィリピン政策金利引上げ(2014年7月31日発表)

## 概要と今後の見通し

ご参考資料 2014年8月1日

フィリピン中央銀行は、7月31日の金融政策決定会合において、政策金利を0.25%引上げを公表しました。利上げは、2011年5月以来3年2か月ぶりとなり、物価上昇が続いている中、概ね市場の予想通りの結果となりました。フィリピンの利上げの概要と今後の見通しについて、ご説明します。

### 政策金利引上げの概要： インフレの抑制目的

7月31日、フィリピン中央銀行は政策金利をそれぞれ0.25%引上げ、翌日物借入金利を3.75%に、翌日物貸出金利を5.75%としました。一方で、6月の会合で0.25%引上げた特別預金口座(SDA)金利は2.25%に据置きました。政策金利の変更は、2012年10月の利下げ以来1年9か月ぶり、利上げは2011年5月以来3年2か月ぶりとなりました。

フィリピンでは物価上昇率が高い水準で推移していることから、中銀は今回の利上げについて、インフレ圧力への予防的措置であるとしています。6月の消費者物価指数(CPI)上昇率は、前年同月比+4.4%と5月の同+4.5%からわずかに下落したものの、中銀の2014年の目標レンジの+3%~5%の上限付近で推移しています。なお、2015年の目標レンジは+2%~4%としています。

中銀は6月の政策決定会合において、食品価格の上昇が物価に与える影響について注視するとしつつ、政策金利を据置き、SDA金利を引き上げました。今回の利上げについて、中銀は、「フィリピンの内需は引き続き良好で、経済成長率に悪影響を及ぼすことはない」とコメントしています。

### 当社グループによる今後の見通し： フィリピン経済は引き続き堅調 今後のインフレ動向によっては更なる利上げ余地あり

利上げによるフィリピン株式市場および為替市場への影響はほとんど見られず、発表当日のフィリピンペソは対円、対米ドルともに小幅な値動きにとどまりました。なお、フィリピンペソは6月末から7月末の1か月間で、対円で+1.6%と堅調に推移しています。また、フィリピン株式市場を代表するフィリピン総合指数は同期間+0.3%となりました。

個人消費が名目GDPの約7割を占めるフィリピンにおいて、物価上昇が続くことが経済の減速に結びつく可能性があるため、中銀は、今後のインフレ動向によっては更なる利上げの余地を残しています。当社グループにおいても利上げの可能性もあると考えています。

先進国や中国の景気動向などの外部要因から、フィリピン株式市場が影響を受ける局面も見込まれますが、堅調な内需を支えるフィリピン人海外就労者(OFW)からの本国送金は引き続き増加傾向にあり、今後もフィリピン経済は力強い成長が期待されます。

フィリピンの翌日物借入金利およびCPI上昇率(前年同月比)の推移



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。  
期間: 2010年1月1日~2014年7月31日、CPIは2014年6月まで。

フィリピンペソの推移



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。  
期間: 2010年1月1日~2014年7月31日。対米ドルは100ペソ当たりの推移。

※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第379号/加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会